

「もし自分の身体が…②～箏曲部連覇達成！～」

校長 江口 満



【前号からの続き】小倉駅から新幹線に揺られながら、「男子バスケット部、絶対に勝ってくれ。明日は必ず応援に行く！」「もしドラえもんがいてくれたなら、きっとどこでもドアを出してくれるのに。」などと考える。

リーデンローズ(ふくやま芸術文化ホール)に到着後、すぐにリハーサル室に入室。第41回全国小・中学生箏曲コンクールに出場する各校の生徒の皆さんが、最後の調整を行っていた。しかし本校の箏曲部の数名と職員があわただしく動いている。弦が切れたのだ。昨年も部長の弦が切れ真っ青になっていた。そして今年は特に弦が切れやすいと聞く。曲想に合わせて邦楽器店の方が、弦を細くしてくださっていたからだ。だからコンクール前のここ数週間、弦の修理に追われたそうだ。私はあまり縁起を担ぐ方ではないが、「これは幸先がいい。昨年もこのリハーサル室で切れたはず。本番に切れなくてよかった…」と内心思う。

お茶を口に含む。無性にのどが渇く。気づけば何もしない私自身が、一番緊張していたのかもしれない。

昨年のコンクールでは、ここリーデンローズに行き、演奏できること自体が喜びであった。新型コロナウイルスの影響で中止や映像審査が続き、部員にとっては初めてのコンクール実体験であったからだ。ステージ本選で演奏できるだけでよかった。だから昨年は無欲の勝利であった。

しかし今年は違う。「連覇などと意識してはいけない。コンクール本番こそ平常心であらねばならない。」と自分自身に言い聞かせてはみたものの、カメラを構えた指先が震える。

本番前の最後の演奏。幸いにも部員の皆さんは落ちついていて。大会に込める思いが弦に伝わり、強弱の均整が取れ、迫力ある演奏に心が震える。部員たちのこの一年間の苦労を想像する。特に



三年生のプレッシャーは、並々ならぬものがあったはずだ。追われる立場。昨年は二年生だったから三年生についていくだけでよかった。しかし今年は二年生を引っ張っていかなければならない。いやがうえにも「金賞」を期待される。リハーサル室でも他校生徒からの視線を感じるほどである。(裏面へ)

本番前、リハーサル室の様子。その緊張感の中、追い打ちをかけるかのように弦が切れる。曲想に合わせて邦楽器店の方が弦を細くしてくださっていたため、今年は特に弦が切れやすいと聞く。あまり縁起を担ぐ方ではないが、「これは幸先がいい。昨年もこのリハーサル室で切れたはず。本番に切れなくてよかった…」と内心思う。



実を言うと7月9日(日)、リバーウォーク芸術劇場大ホールで行われた保護者鑑賞会では、正直物足りなさを少し感じた。繊細なメロディーと美しい高音の響きを感じるが弦の強さを感じない。昨年の演奏がまだ聴覚に残っていたのだろうか。しかし数日前、響きホールでの最終リハーサルでの出来を顧問のH先生に聞いた。「やっと仕上がりました。何とにか間に合いました。」という嬉しい知らせ。「K先生もほめてくださいました。」と、期待が膨らむ。



本番。出演順6番「箏四重奏曲」。静かに幕が上がる。照明の光に浮かび上がる二、三年生。プレッシャーをものともせず、心を一つにした繊細で迫力ある演奏が始まる。四つのパートが自己主張しながら、またそれぞれを補完する。一弦一弦に精神が宿り、弦の息遣いを感じる。圧巻の6分間だった。幕が下り、会場は温かい拍手に包まれた。成績発表。金賞。創部20年目の集大成として最もふさわしい「連覇」を成し遂げたのだ。



今まで熱心に指導してくださったH先生、K先生、M先生、Y先生、異動されたT先生、支えてくださった保護者の皆様に心から感謝申し上げます。そして箏曲部の皆さんにとって、思いっきりチャレンジした暑い夏になりました。

緊張感も最高潮に。
本番直前、最後の練習



そしていよいよ生徒の皆さんと一緒に、二学期という物語を綴っていく。

本校が誕生して半世紀、創立49年目の集大成の年、本校の伝統を「守・破・離」の精神で育てていくならば、二学期はちょうど「破」の時期になる。つまり一学期は昨年度までの伝統を守り継承してきたとするならば、二学期は今までの伝統を破り、独自の工夫を行い、新たな方法を組み込んでみる時期になる。その時代の変化を、現場の最前線で取材ができる。私は、それが、何よりも幸せに感じている。生徒の皆さんの二学期での活躍を、心から楽しみにしている。

「一年生に頼られるような部長に」 2年4組 新箏曲部長 Uさん

私たちは全国コンクールで「箏四重奏曲」を演奏しました。私は昨年も金賞だったということもあり、とても緊張しました。コンクールがある少し前まで全然そろわなくて、不安になることもありました。私たちのパートは、音と音の間に入ることが多くて苦戦していました。しかし、部長がコンクールの直前まで練習に付き合ってください、だいたい合うようになり本番を迎えました。

私たち二年生はコンクールに出場することが初めてで、練習室にいる他校の演奏を聴き自信を失いかけてましたが、できると信じて本番に挑みました。そして結果発表で「エントリーナンバー6番」と言われたときは、今までで一番うれしい瞬間でした。

帰りのバスで部長が私だと言われたときは、すごく驚きました。先輩のようにできるかは分からないけど、一年生に頼られるような部長になりたいです。

「感謝の箏曲部」 2年2組 新副部長 Nさん

全国コンクールでは箏四重奏曲を弾きました。昨年金賞をとったというプレッシャーと自分の目標があり、初めてコンクールという大舞台に立つのがとても不安でした。練習中は全然合わなくて音も小さく先輩や先生方に怒られたこともありました。正直、私は金賞というものが手の届かないところにあるものだと思います、少しあきらめかけていました。また他の学校と同じ曲を弾くと聞いて驚きました。本番が近づき、先生方が響ホールや芸術劇場などの練習会場を設けてくださったお陰で、皆の音がそろうようになった時は嬉しかったです。

そして当日は他校もいて音の強さに圧倒されそうになったけど、先輩達と円陣を組んで心を一つにしました。演奏中のことはあまり覚えていないけど、「エントリーナンバー6番」と言われたときは、初めて心の底から嬉しくなりました。私は、副部長になって先輩みたいにうまく周りを見る自信はないけど、自分なりに先輩を真似して部長を支えられるように精一杯頑張りたいです。

今まで支えてくださった先輩、H先生、K先生、卒業生の方々、運転手のTさんをはじめとする関係者の方々、保護者の方々、本当にありがとうございました。



6月3日(土)折尾まつりに出演した三年箏曲部の皆さん